平成30年 9月27日(木)

第4回

授業づくり離成 授業研究会

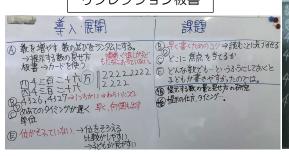
REPORT 4 東部教育事務所

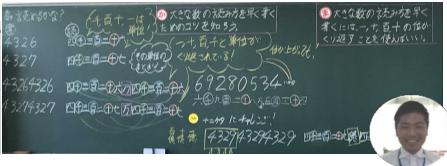
室戸市立室戸小学校

第3学年 「10000より大きい数をしらべよう」授業者 隂山 良太 教諭

今回は「命数法」に焦点を当て、命数法の「よさ」に気付かせるよう授業構成を再考して提案されました。 従来の授業では、千億までの数字を読んだり書いたりすることが多く、今回のような命数法や記数法の「よさ」 (〇~9の数詞と一・十・百・千・万・億の組合せで 12 桁の表現ができる等)に視点をあてた単元構成は少なかったので、参観者からも「大変勉強になりました。」という感想が多くありました。

リフレクション板書





学力向上総括専門官より

<u>①目標と内容の乖離をなくす</u>

この単元で付けたい資質・能力(3つの柱)をしっかり押さえ授業を行う。例えば、本時のめあての中にある「コツニよさ」は子供に考えさせるものではなく、気付かせるものである。

②従来の「型」にはまらない問題解決の在り方

本時の学びのゴールは、仕組みと「よさ」に気付く ことであった。「よさ」は子供が唱えたり整理したりす る中で実感するものであり、本時では子供に「よさ」 を考えさせてしまったためにずれが生じた。

③質の高い問題解決を支えるための仕掛け(技)

思考対象を分かるように提示することが大切である。そして、子供の発言の裏側にあるアイディアを価値付けていく。(子供の発言を可視化し、どういったことなのかを全体で共有する。)





◆参観者より

- 〇日々、教材研究をして、自分が教科の内容を学ぶことがすごく大事であるということを改めて感じました。そして、 算数の世界の面白さをこれからも子供たちと共に探っていきたいと思いました。
- ○「子供の気付きから授業をつくる。」という言葉が心に残りました。そのために、"何を気付かせるのか"という問いの質や発言の検証の仕方が重要だと思いました。そうした授業の考え方、つくり方を大切にして研究を進めていきたいと思いました。
- 〇単元を描く基本となる3つの項目に関しては、自分の専門教科にも生かせるものだと感じました。

11月29日(木):野市東小学校6年生「比例と反比例」、平成31年1月31日(木): 舟入小学校4年生「面や辺の平行・垂直」の授業研究会が行われます。ぜひご参加ください。